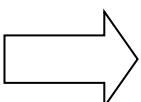
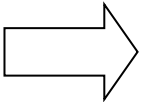
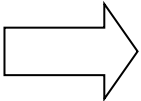


◆ 経営理念 ◆

- 【教育目標】 「志高く、未来を拓く」
- 【ミッション】 生徒に、夢や志に挑戦する勇気と自信を与え、「グローバル社会で活躍する人材を育成する」学校
- 【ビジョン】 (1) 主体的に学ぶ力を育み、確かな学力を育成する。
(2) 規範意識や礼儀など豊かな心を育む。
(3) グローバルマインドを養い、夢や志の実現に向けて粘り強く挑戦する逞しい気力と体力を育成する。
(4) 小中一貫教育の充実を図り、9年間を見通した教育活動を展開する。
(5) 保護者・地域から信頼される開かれた学校づくりを推進する。

◆ 経営目標・評価項目・評価・達成状況 ◆

	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価指標	目標値	中間		最終	
						達成率	達成度評価	達成率	達成度評価
確かな学力の育成	主体的に学ぶ力を育み、確かな学力を育成する。	基礎・基本の学力定着と家庭学習の習慣化を図る。	○「教えて考えさせる授業」 ・予習を活かした授業作り ・理解確認・理解深化の充実 ○「学びのスタンダード」「学びのすすめ」を基にした学習に臨む意識向上 ○ICTの活用（タブレットを使用した学習・ドリル学習）	○各種学力調査において、 全国平均を上回った教科数の割合(%)	50	3年 全国学力 33%(1/3)	66.6 2	3年 全国学力 (1/3) 1,2年 標準学力 調査 (4/10) 38.5%	77.0 3
		主体的に学び、行動する生徒を育成する。	○自学習・読書の充実 ○課題発見・解決学習の充実 (各教科・総合的な学習の時間における探究的な学びを目指した授業作り)	○「ほぼ毎日、家庭学習を2時間以上している」と肯定的に回答した生徒の割合(%) ○「主体的な学び」に関するアンケートの肯定的回答の割合(%)	80	1年(7/10) 2年(3/11) 3年(5/8) 15/29 51.7% 70.3%	64.7 2 87.9 3	1年(5/10) 2年(5/12) 3年(5/8) 15/30 50.0% 72.3%	62.5 2 90.4 3
豊かな心の育成	規範意識や礼儀など豊かな心の育成	自己肯定感、自己有用感や他者理解を高める。	○スマイルキャンペーンの実施と充実 (スマイル運動、スマイル集会) ○「いいね」カードの取り組みの継続	○生徒アンケート 「自分には良いところがある」と肯定的に回答した割合(%)	85	1年(7/10) 2年(9/11) 3年(7/8) 23/29 79.3%	93.3 3	1年(7/10) 2年(10/12) 3年(7/8) 24/30 80.0%	94.1 3



結果概要と分析	今後の改善方策〈取組〉	担当	学校関係者評価 (コメント)
○全国学力・学習状況調査(3年生対象)の結果は、国語 70(全国 69.0)、数学 41(全国 51.4)、理科 49(全国 49.3)であった。国語、理科ではほぼ全国平均並みであったが、数学では全国平均から-10.4ポイントで、広島県の平均(50)と比較しても低い正答率となっている。学習分野では「数と式」が-23.1ポイント、「関数」が-20.3ポイントという結果となった。 ○三次市学力調査(1・2年生対象)では1年生は英語以外の4教科で全国、広島県と比べて高い正答率となった。英語については全国平均-5.2ポイントとなった。2年生では5教科全てにおいて全国・広島県と比べて低い正答率となった。2学年の全体的な基礎的・基本的な学力の定着について取り組む必要がある。	○数学では、文字式・関数の意味や使い方について、様々な場面で繰り返し扱い、文字式や関数のグラフなどを使うことの有用性を感じられる授業展開を行う。また、ドリル学習により、既習内容の定着を図る。 ○他教科においても、単元学習後に基礎的・基本的な語句の確認テストや、復習プリント、デジタルドリル学習を行うなどして学力の定着を図り、学力調査における全国平均を上回るよう取組む。 ○2学年については全体的な学力の定着が必要であり、基本的な課題を確実に解ける力をつける必要がある。各教科における授業進行の仕方の工夫、復習課題の充実、内容定着の細かな確認などを重視し、スモールステップで進める授業展開を意識して、学力定着を図る。	A	○英語は必要科目で、もっと解り合える授業を進める必要がある。2年生は家庭学習等で復習に取り組み学力の定着を図る必要がある。 ○授業内容、方法の工夫・改善、教科間の壁を超えたコミュニケーションが必要と思う。 ○家庭学習の時間が取れていないようなので、家庭との連携も含めて取組むべき課題と考える。 ○個人差があると思うが、基礎的な内容理解が不十分な生徒には、引き続き、継続した支援体制の充実や一人一人に合わせた勉強の進め方などに取組んで欲しい。
○「ほぼ毎日、家庭学習を2時間以上している」生徒の割合は全体として50.0%であった。1年生では前回よりも割合が下回り、2年生では前回よりも上回ったが半数以下という結果であり、家庭学習が定着していない。 ○「主体的な学び」に関するアンケートでは、72.3%が肯定的な回答であり、全体的には良好である。「課題設定」は-4.3%「整理分析」は-4.7%「振り返り」は-4.2%という結果であった。	○家庭学習の取り組みについて、生徒への説明と各担任からの声かけを引き続き行い、家庭学習への意識を高めると同時に、復習プリント、デジタルドリル等を活用して家庭学習の定着を図る。 ○各教科及び領域において、基礎的・基本的な知識や技能の定着とともに、生徒が主体的に課題を設定し、情報を整理・分析していく発展的な取組や学習のまとめとしての振り返りを行うよう、教員の意識を高めていく。	A	○家庭学習を中心に、主体的に学ぶ態度の向上が期待される。興味・関心が学習意欲につながる。 ○家庭学習の習慣化、効率的に身に付く良い学習の仕方、意欲的な取組等もっと保護者に協力を呼びかけして欲しい。 ○この地域には、学校以外に学習塾等の環境がないため、家庭学習時間の確保も伸びていないのだと思う。コミュニティスクール等の計画の中で、地域ボランティア等による学習支援が出来たら良い。
○「自分には良いところがある」の設問に対する肯定的に回答した生徒の割合は、全体で80%であった。学年別で見ると、第1学年が70%、第2学年が83%、第3学年が88%と、学年が上がるにつれて肯定的評価も上がる結果となった。	○現在取り組んでいるスマイルキャンペーンや各クラスで行う「いいねカード」の取組を継続する。併せて、日々の取組として、意図的に班活動を仕組むことや授業での交流などで他者との関わりを増やす。また、生徒会活動を生徒がより主体的に行うことができるよう意図的に仕組むことで、自分の長所に気付かせたり考えさせたりして、自己肯定感や自己有用感を向上させる。	A	○道徳性の意識向上も図る。 ○様々な体験の場と機会を設け、教育の効果を上げるために、教授目標に照らして、児童生徒の学習が成立しているかどうかを常に確認しながら学習指導を行うことが大切である。 ○自己肯定感、自分が自信を持つことにつながるので、目標値をもう少し高く設定してほしい。 ○学年が上がるにつれて肯定的評価が上がっており、取組みの成果が表れていると思う。引き続き、生徒一人ひとりが主体的に活動できる場面を多く設定し、自己肯定感を高める指導を行ってほしい。

